

## 第 章

建学の精神・音楽専攻科の  
基本理念及び使命・目的

## 第 章 建学の精神・音楽専攻科の基本理念及び使命・目的

### 第 1 節 建学の精神・音楽専攻科の基本理念

#### ( 1 ) 事実の説明 ( 現状 )

大阪音楽大学の前身である私立大阪音楽学校 ( 旧称 ) は、1915 年 ( 大正 4 年 ) 10 月 5 日に初代校長・永井幸次により、大阪市南区塩町 ( 現、中央区南船場 ) に設立された。その後、1926 年 ( 大正 15 年 ) には大阪市東区味原町 ( 現、天王寺区味原本町 ) に移転、1948 年 ( 昭和 23 年 ) には大阪音楽高等学校 1951 年 ( 昭和 26 年 ) に大阪音楽短期大学が開校された。1954 年 ( 昭和 29 年 ) に、豊能郡庄内町野田 ( 現、豊中市庄内幸町 ) に移転し現校地となっている。1958 年 ( 昭和 33 年 ) には大阪音楽大学が開校され、同時に大阪音楽高等学校が附属音楽高等学校へと改称された。また翌年の 1959 年 ( 昭和 34 年 ) には大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部へと改称された。附属音楽高等学校は 1981 年に閉校となった。

1967 年 ( 昭和 42 年 ) には附属音楽幼稚園、大阪音楽大学短期大学部専攻科 ( 1995 年 ~ 1999 年はセミナー制 ) と共に大阪音楽大学音楽専攻科 ( 以下、大学専攻科と略す ) が開設された。1968 年 ( 昭和 42 年 ) には大学院音楽研究科の開設を経て、現在の教育組織体制へと発展してきた。また、創立者永井学長の持論である「音楽人は教養が与えられねばならない。教養の深い人の音楽は高雅である」という人間性の涵養の修得とともに音楽知識を含めた一般教養の修得、社会人としての自己形成を伴った修練・研究・創造であることを建学の精神としている。この精神は本学における教育理念を支え、現在まで受け継がれている、また創立年の 10 月 15 日には授業が開始され、この日を「創立日」と決めている。この開学に合わせて、建学の精神を音楽教育の現場により一層生かされるように、再度次の理念が揚げられた。

### 新しい音楽の発生地をめざして

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ藝術ハ之ノ學校ニヨッテ統一サレ  
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

創立者 永井幸次の開学理念より

この理念の示すところは、正に「新しい音楽の発生地 ( 発信地 ) をめざして」に集約される。この建学の精神に支えられた理念は、社会状況に対応した教育方針の変遷過程においても変わることなく現在にいたるまで脈々と受け継がれている。

( 2 ) 第 1 節の自己評価

現在、建学の精神・教育理念は大学案内や大学公式ホームページに掲載し、また入学式における学長式辞などによって学生、教職員に周知されている。

( 3 ) 第 1 節の改善・向上方策（将来計画）

今一度、建学の精神の重要性を学生、教職員に促すとともに碑文の設置などの具現化をはかりたい。

## 第 2 節 音楽専攻科の使命、目的

( 1 ) 事実の説明（現状）

建学の精神・音楽専攻科の基本理念に基づいた音楽専攻科の使命、目的

建学の精神である自己形成を伴った「修練・研究・創造」の場ということが重視され、大学専攻科は音楽大学の基礎の上に立ち専門技術研究を発展させ、かつ、社会の音楽活動に直結し、実践的性格を持つ特別の専門課程による教授を行い、音楽に関する専門技術者養成を目的としている。つまり、大学時代の専門学修の継続、発展と専攻科ならではの社会に結びつく学修を両立させるものである。

音楽専攻科の使命・目的の学内における周知方法

例年発行される学生便覧、及び教員便覧に大学専攻科規則を掲載するとともに、入学式および新入生ガイダンスにおいて周知している。

音楽専攻科の使命・目的の学外への公表

上述の目的を周知徹底させるべく、本専攻科の内容は大学専攻科主事による入試ガイダンス、更に大学案内および大学ホームページにおいて学外に公表している。

( 2 ) 第 2 節の自己評価

専攻実技に重点を置く実践的な教育と共に、社会との接点を持った学外での演奏会を体験することは大学専攻科の個性や特色とも言える。しかしながら、音楽学部在学 1、2 年次生に向けて 1 回の入試ガイダンスの段階ですべて認識させるのは難しいが、複数回にわたる入試ガイダンスにおいて周知を図る必要がある。また、演奏会におけるアンケート調査等も大学専攻科の使命・目的が達成されているかどうかを判断する有効な手段として利用していきたい。

( 3 ) 第 2 節の改善・向上方策（将来計画）

建学の理念に基いた大学専攻科の目的を今一度再認識させる工夫がなされるべきである。更に、学外での演奏会の準備は時間を費すかなりハードなものである。学生個々の能力が万全な状態で示されるよう、余裕を持ったスケジュールにより、質の高い演奏会を目指したい。

〔第 章の自己評価〕

建学の精神・理念及び使命・目的は大学専攻科においても明確に示されている。しかし学外に対して、大学専攻科独自の更なるアピールが必要と思われる。

〔第 章の改善・向上方策（将来計画）〕

学外へ周知する方策として、更なる工夫を施し、理解を促すべきであろう。大学専攻科の特色でもある特別演奏実習（以下、「オータム・コンサート」という）をはじめとする社会と直結した活動は、学外へアピール出来るチャンスとしてさらに生かされるべきであると考えている。